

画論 The Best Image 2015 参加報告

JA 北海道厚生連 遠軽厚生病院 佐々木泰輔

ウチに Aquilion ONE ViSION がやってきてもうすぐ3年。旭川営業所の赤屋敷さんから「佐々木さんもそろそろ画論ですよね～」とソフトなプレッシャーをかけられ続け、ようやく初応募。。。そして画論事務局より上位入賞のお知らせが。えっ！ま、マジで？院内外の人たちにも「おめでとうございます」「泊るんでしょ、帝国ホテル。うらやましいなあ」、クリニカルコメントを書いてくれたキュートな循環器科・松田ドクターと一緒に東京へ行くことに「松田先生に変なコトするなよ（笑）」とか色んなお言葉をかけられつつ、行って参りました！

お題は「移行型房室中隔欠損症」という、成人の心臓では滅多にお目にかかれない症例を出しました。入院時の心エコーを見て、、、あれ？僧帽弁が三尖弁？になってる(Fig.1)。。。何この中隔の穴2つ。。。とか思いながらも、シャント血流の方向や弁逆流の大きさ、LVEF・心拍出量などをヒントとし、ONEらしく一発で仕留めるための撮影条件を考えました。特にVR像は普段手を抜くところを抜かずに頑張りました（笑）。

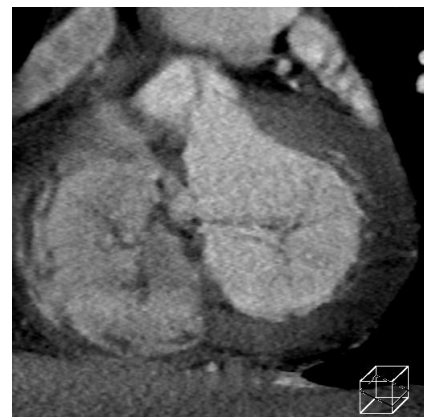


Fig.1 房室弁レベル収縮早期
(RR10%再構成)短軸像

当日のディスカッションでは、過去に一般参加者として後ろの自由席から眺めていた華の“指定席”があてがわれテンション急騰、発表順はCT部門のラストから2番目という事で高いテンションを維持したまま他の方々の発表を聴き入りました。私の発表自体もスムーズにできたんじゃないかと。松田先生も帝国ホテルのメモ紙に手書きの原稿を用意しましたが、それに頼らずしっかりアピールしてくれ感動です。審査員の先生（慶応の陣崎先生だったでしょうか）から、画像の美しさにお褒めの言葉があり、とても嬉しく、モチベーションがマックスになりました。このディスカッション～特別講演～表彰式～情報交換会(Fig.2)の雰囲気って学会にはない画論独特の華やかさだよなーと改めて感じました。次回も機会があればエコーかCTで挑戦します!!!



Fig.2 表彰式後の情報交換会

左:筆者 中央:瀧口東芝メディカル社長 右:大御所山口氏